

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第167版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵

動画活用のポイント

発達支援ソフト「ミマモリング」のユーザーをつなぎ、園の保育環境や実践事例を共有し合うオンラインセミナーの「ミマモリングアドバンス」。参加園の皆様には、録画データをお渡しし、園内研修でもご活用いただいています。今回、沖縄県のなごうら認定こども園様に、録画データを活用した園内研修についてお話を伺いました。

録画データを活用する理由として、職員全員と一緒に学べることで、動画の再生を一時停止し、どうしてもミマモリングを導入したのかを職員へ伝えられるのが、録画データを活用した園内研修の良さだと教えて頂きました。園内研修の内容として、4月は録画データを観てミマモリングの考え方を学ぶ。5月は話し合いながら、発達チェックを行う時間を設けたそうです。

「ミマモリングは保育が楽しくなるツールだと思っています。楽しくなるから質が高まり、意識だけではなく、実践を重ねることで質がさらに上がると考えています」と仰



録画データは「ミマモリング」の使い方や、セミナー参加園が行う実践発表の動画をお渡ししています。

います。続けて、「指針は大きなもので、具体的な内容ややり方は自分たちで考えよう！子どもたちの姿がこうなった。その上で環境をどうするかを話し合おう。環境だけ作っても、発達を理解できていなければ考え方が偏ってしまうため、ミマモリングを使い、発達を振り返ろう」と園内研修で職員の皆さんへ伝えたと仰っていました。

セミナーでは参加者同士がライブで学び合う良さがあります。園内研修では、今回伺ったように導入の目的や保育方針を確認し合う時間となり、「ミマモリングアドバンス」の新たな価値を教えてくださいました。（奥山卓矢）

歩みを楽しむ

東京都杉並区にある佼成育子園様では年に1回、休みの日を利用し全職員が集まって理念研修を行っています。園の理念を再確認し、職員の皆様が心ひとつに質の良い保育に向かって邁進できるよう学ぶ機会ということで、新たに14代目の園長となられた高野様と、副園長の福井様から今年の研修についてお話を伺いました。

今年はまず7つのグループに分かれ、謎解き形式でミッションをクリアし、そこに隠されたお題【保育理念】【保育方針】【保育目標】【保育方法】【保育方針】の内容に関わるカルタを作る、ということそれぞれに取り組んだそうです。

「カルタを作るに当たり、【保育理念】【保育方針】【保育目標】【保育方法】を振り返り、コミュニケーション力を深めながら作成していきました。字が上手な職員、絵が得意な職員、色塗りが好きな職員、言葉のチョイスがうまい職員など、それぞれが特性を活かして、信じ合い、協力し合い、感謝し合いながら取



のびのびと楽しむ先生たちは、まさに子どもたちのお手本です！

り組む姿は、まさに園の理念である『感謝と貢献』そのものだった！と嬉しそうに話して下さったのがとても印象的でした。

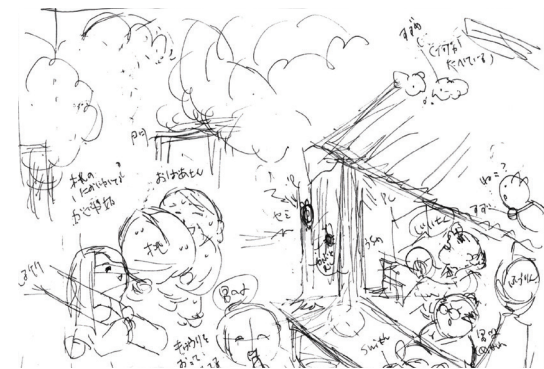
74年という長い歴史のある園ということもあって、歴代園長の見守りも力に、新体制となっても不安どころかなんだかとても楽しそうに、理念を大切にしながら一丸となり前に進んでいる先生たち。その様子からは、過去に感謝し、未来に希望を持ち、かけがえのない今を楽しみ歩んでいくという大切なことを教えて頂きました。

（宮前奈々子）

季節の便り

毎年、お客様やお世話になっっている方へはがきでお送りしていた暑中見舞いと年賀状。今年からは、はがき以外の方法でお送りすることを試してみようとプロジェクトが始動しています。

というのも、はがきという限られた大きさの中では挨拶程度しか書き入れることができない、という声が社内からあがっていたためです。例えば今では年賀状も「スマートねんが」のようにLINEで送ることができたり、動画で送ることもできたりします。選択肢が増えた中で、私たちの会社にとってはどのような形に進化するのが合っている



暑中見舞い新聞に掲載予定のイラスト、貴重なラフ画です。

のか、熟考を重ねました。その結果、この毎月お送りしている竹取新聞を活かすのはどうだろうという意見から、暑中見舞いの時期には竹取新聞を「特別号」とし、誌面で季節のご挨拶をさせていただくことにしました。竹取新聞だとスペースを大きく取ることができ、具体的に保育や生活に活かせる内容を添えてお届けすることもできると考えたからです。「今あるものを活かす」ことも社内から賛同の声が伸びました。また、はがきの時にイラスト制作をお願いしていたイラストレーターさんにも引き続き制作をしていただけることになりました。涼やかなイラストとともに、来月の暑中見舞い号では誌面で「納涼」を感じていただけるよう、内容の校正を進めています。今回はこの竹取新聞を活かすことにしましたが、気持ちの込め方ははがきでお送りしていた時と変わらず、もしくはそれ以上に感じていただけるようなものをお届けしたいと思っています。（眞田由莉）

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

七夕行事



一つひとつの色や形にも祈りや願いを込めて…。七夕飾りについてはQRコードからご覧いただけます。

もうすぐ五節供のひとつ「七夕」です。園やご家庭でも、子どもと一緒に短冊に願い事を書いたり素麺を食べたりして七夕行事を楽しまれている方も多いのではないのでしょうか。そもそも七夕は、夏野菜の収穫の「感謝祭」や、日本の古代信仰の「棚機（たなはた）」、中国伝来の織姫・彦星の「星祭の伝説」や女性が手芸・裁縫の上達を願う「乞巧奠（きこうでん）」

でん・きつこうでん）」先祖供養のための盆行事」などが合わさってきたものとされていますが、「願い事を笹に飾る」風習は、日本独特の文化だといえます。まっすぐに育ち、冬でも緑を保つ生命力のある竹や笹には、昔から神聖な力が宿っていると考えられており、七夕飾りに用いられるようになったようです。

また、七夕の歌にある「五色の短冊」のとおり、願い事を書く短冊はもともと古代中国から伝わった「陰陽五行説」に因んだ「青・赤・黄・白・黒」の五色が一般的。更には、七夕飾りも、長寿の象徴である「鶴」、幸せをたぐり寄せる「網飾り」などそれぞれに意味があるというので、驚きです。そんな一つひとつの由来や意味を知ることや行事の原点に触れられますますます楽しめるかもしれないですね。（宮前 奈々子）

日本の智と慧

その後③

「日本の智と慧」の冊子完成が近づいてきました。サンプルを手に「この時期ならではの日本の智慧とは」と思い、2年前の6月に掲載された記事を読み直してみることに。すると、雨に関する記事が掲載されていました。「日本には四百以上もの雨の名前があること」「恵みの雨に感謝し、時に水害に警戒しながら、雨と上手に付き合う智慧を磨いてきたのでしょう」とあります。涙のようにほんの少しだけ降る雨を「涙雨（なみだあめ）」と呼んだり、晴れているのに降る雨をまるで天が泣いているよ



冊子化は最終段階に！近々皆様にもお披露目できると思います！ぜひお楽しみに！

うだからと「天涙（てんきゅう）」と呼んだり。「村雨」も降り始めと降り止みが突然な雨のことを呼ぶそうで、名刀として有名な村正は、雨乞いをするときにのみ使用することから、その名がついたそうです。知るほどに雨が楽しみになるような様々な名がありました。また、文中には「あなたなら、今日の雨にどんな名前をつけますか。」とあります。これからの季節、子どもと一緒にそんな遊びをするのも楽しみですね。（眞田 海）

一期一会庵

梅雨の味わい

全国的に梅雨入りし、アジサイやアヤメの花が満開で雨に濡れて水の気配を引き立てています。

そもそもこの梅雨というのは、どういう由来からの言葉か調べてみました。すると、もともとは中国から由来した言葉で江戸時代には日本でも定着しており、日本歳時記にも「此の月淫雨ふるこれを梅雨（つゆ）と名づく」と出ています。

この梅雨の漢字の梅は、もともとは梅ではなく黴（かび）からともいわれます。黴の生えやすい季節なので、中国では「黴雨（ばいう）」と呼んでいたそうです。それがイメージもよくなかったので別の響きで梅の字を当てたということや梅が熟す季節の雨だから、梅雨としたともあります。

中国語では、これを「つゆ」とは呼びませんが日本では「露」から来たともいわれます。また、食べ物グダメになるから「費ゆ」は「潰ゆ」となったともあります。

どちらにしても、緑が青々として湿気を帯びた日本の風土の雰囲気があります。

青い梅や熟した梅を連想しやすく、まさに梅雨の季節を表すぴったりの言葉です。

この時期はよく観察していると、陰気の中に強い陽気が働きます。太陽がもっとも長い夏至もまた、この梅雨の間に訪れます。

植物たちや野菜たち、お米などもこの時期を待っていたとばかりにぐんぐん成長していきます。

私たちは水によって生きていますが、水が大量に動き働く季節に、私たちはその成長を促されているように感じます。子どもの頃の長靴や傘や雨具を着て、はしゃいでいたことを思い出しました。

家の中のカビ対策は大変ではありますが、生き物たちが活発に成長しあうとても大切な季節です。

この季節にしかない瑞々しい梅雨の味わいを子どもたちと共に楽しんでいきたいと思っています。

（野見山 広明）



編集後記



保育園時代はいつも声を聴いてもらっていた幸せな時代だったようです。

「異次元の少子化対策」という岸田総理の発表をテレビで見ている時のことです。

小学校6年生の息子が「そんなことしても、子どもは少なくなっていくかな。それよりも日本の借金を減らすこと考えないとさ、不安でしょうがないんだけど。」とボソリ。国の税金に頼ることを考え

るばかりではなく、国が反映していく展望がなければ、子どもたちからすると不安で仕方がないと思うのも一理あるように思います。

もらえれば助かるという大人の気持ちだけではなく、これからの未来を生きる子ども達の声も聴ける社会にしていきたいものですね。

（眞田 海）

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

